梶川 克哉（Katsuya KAJIKAWA）

学位：博士（文学）

略歴：名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本文化専攻 博士前期課程修了

　　名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本文化専攻 博士後期課程満期退学

専門分野：日本語意味論、日本語教育

研究課題：日本語の複文表現、意味分析

【論文】

・「『あらわす』『あらわれる』の多義分析」（愛知文教大学『愛知文教大学論叢』第 24 巻、2022 年 2 月）

・「逆接『～ながら』の周辺事例的解釈―付帯状況用法との意味的関わり」山梨正明（編）、『認知言語学論考』No.15、（ひつじ書房、2021 年 5 月）

・「『春』の多義分析」（愛知文教大学『愛知文教大学論叢』第 23 巻、2021 年 3 月）

・「〈表面接着〉から広がる『かける』の多義」、プラシャント・パルデシ他編『多義動詞分析の新展開と日本語教育への応用』（開拓社、2019 年 11 月）

・「メンタル・スペース理論に基づく『~ために』と『~ように』の考察」（日本認知言語学会『日本認知言語学会論文集』第 19 巻、2019 年 5 月）

・「『逆接』と中心性」（日本認知言語学会『日本認知言語学会論文集』第 14 巻、2014 年 5 月）

・「『目的』と『原因』を表す『～ために』の意味的共通性」（関西言語学会『KLS Proceedings』33、2013 年 6 月）

・「『X は Y でありながら Z』で示す主体属性との非親和性」（日本認知言語学会『日本認知言語学会論文集』第 13 巻、2013 年 5 月）

・「複文表現の意味的カテゴリー ―『目的』『 付帯状況』をめぐって ―」（名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士論文、2012 年 9 月）

・「『目的』を表す『～ために＋移動動詞』と『～に＋移動動詞』の比較」（関西言語学会『KLS Proceedings』32、2012 年 6 月）

・「『～がてら』の意味分析」（日本認知言語学会『日本認知言語学会論文集』第 10 巻、2010 年 5 月）

・「動詞『おす』の意味分析」（名古屋大学留学生センター『日本語・日本文化論集』第 17 号、2010 年 3 月）

・「『働く』の意味分析」（名古屋大学国際言語文化研究科『言葉と文化』第 11 号、2010 年 3 月）

・「現代日本語における『散歩』の意味分析」（名古屋大学留学生センター『日本語・日本文化論集』第 16 号、2009 年 3 月）

【口頭発表その他】

・「『旅』の意味分析」（共同研究）（日本認知言語学会第 22 回全国大会（オンライン開催、2021 年 9 月）

・「メンタル・スペース理論に基づく『~ために』と『~ように』の考察」（日本認知言語学会第 19 回全国大会、於：静岡大学、2018 年 9 月）
・「名古屋 SKY 日本語学校の取り組み」（ライセンスアカデミー研修会基調講演、2018 年 2 月）
・「日本語学校の学生」（高田短期大学教員研修会、2017 年 2 月）
・「『逆接』と中心性」 （ワークショップ「百科事典的意味観の射程」日本認知言語学会第 14 回大会、於：京都外 国語大学、2013 年 9 月）
・「属性カテゴリーの周辺的事例を示す『～ながら』」（日本語文法学会第 13 回大会、於：名古屋大学、2012 年 10 月）
・「『X は Y でありながら Z』で示す主体属性との非親和性」（日本認知言語学会第 13 回全国大会、於：大東文化 大学、2012 年 9 月）
・「認知言語学的カテゴリー観に基づく複文表現の意味解釈 ―『～がてら』を例に ―」（日本語教育国際研究大会、 於：名古屋大学、2012 年 8 月）
・「『目的』と『原因』を表す『～ために』の意味的共通性」（関西言語学会第 37 回大会、於：甲南女子大学、2012 年 6 月）
・「『～ながら』で示される事態の構成要素的解釈 ―『～つつ』との比較を通して ―」（日本語文法学会第 12 回大会、於：東京外国語大学、2011 年 12 月）
・「『目的』を表す『～ために＋移動動詞』と『～に＋移動動詞』の比較」（関西言語学会第 36 回大会。於：大阪府立大学、2011 年 6 月）
・「『～がてら』の意味分析」（日本認知言語学会第 10 回大会、於：京都大学、2009 年 9 月）
・「中国人学生とのかかわりを通じて」（愛知産業大学留学生別科特別講演、2006 年 10 月）

【所属学会その他】
・日本語教育学会
・日本語文法学会
・日本認知言語学会（全国大会　実行委員）
・表現学会
・現代日本語学研究会（主宰）